

## 「巡検会報告」

### 坂本・川口地区の地質

熊大・教育 村 本 雄一郎

5月28日熊大田村先生の案内で30名が参加して標記の巡検会が行われました。巡検地は①変成岩中のウミユリ化石の観察（八代市水島町）②フズリナ石灰岩の採集（坂本村馬廻）③鳥ノ巣石灰岩の観察（坂本村油谷）④川口層の観察（坂本村川口）⑤複合岩脈の観察（八代市川床）でした。

熊大を出発し、高速道路経由で八代市水島町に到着。干拓の堤防際に取り残された残丘部に竜峰山帯の結晶質石灰岩が露出し、この変成岩中にウミユリの化石がたくさん観察できた。（尚、既報の地質図などではこの地点は白亜系と記されている。）

国道219号線を南下し、坂本村馬廻地区に入った。険しい山道を車で上がり、それから10分程歩いて登ったところでフズリナの化石を観察・採集した。このフズリナは二畳紀中ごろのものである。大変観察に適し、教材として利用できる。

坂本村油谷ではジュラ紀坂本層中の鳥ノ巣型石灰岩を観察した。この石灰岩は、その表面を見ると円形の化石が入っているように見られるが化石ではなく、石灰分が凝集してできたジ状石灰岩と呼ばれるものだそうである。

鳥ノ巣型石灰岩の特徴としてレンズ状に地層中に入っているとの説明もうけた。

坂本村を北上し川口地区へ入った。この川口層からは領石型の非海生貝化石が産出することは従来から知られていたが、新たに海生の化石が産出したことや、その意義等について説明があり、露頭の観察を行った（地学会誌90号参照）。昼食後、非海生化石を川口から深水に至る道路沿いで、採集した。

最後の川床では珍しい複合岩脈を観察した。この複合岩脈は中央構造線（臼杵―八代構造線）とほぼ平行しており、それと関係があるらしいとの事である。岩脈形成の時間的前後関係について考えさせる好露頭である。（地学会誌45号参照）

多忙な中、案内して頂いた田村先生に感謝申し上げ巡検会報告とします。

#### 発 行 所

熊本地学会誌	No. 91
熊本市黒髪2丁目	熊本大学教育学部
地学研究室内	熊本地学会
TEL 344-2111	振替熊本6-5359